

平成 27 年 4 月 24 日

2016 年度東北大学 大学教員準備プログラム<フルコース>  
募集要項

Tohoku University Preparing Future Faculty Program (Tohoku U. PFFP)

主催：東北大学 高度教養教育・学生支援機構

現代の大学教員は、研究、教育、管理運営、社会貢献など幅広い役割をこなさなければなりません。しかし、大学院での訓練は主に研究能力の形成が中心となっており、教員の役割をこなすには十分ではありません。

特に、教育活動には、授業設計や効果的な教授法、授業の運営、学生指導など様々なスキルが必要ですが、ほとんどの大学院生は、基礎的な知識をつける機会がないまま教員になり、教壇に立ち、実際の教育活動を通じて経験的に学んでいるのが実情です。就職活動においても、シラバスの提出や面接での模擬授業を求められるなど、教育能力を求められるケースが増えています。

東北大学 高度教養教育・学生支援機構では、教育関係共同利用拠点事業として、2010 年度より「東北大学 大学教員準備プログラム(Tohoku U. PFFP)」を実施しています。このプログラムは、大学教員を目指す皆さんが大学教員に求められる能力や知識を実践的に学び、効果的な省察力を身につけ、円滑に初期キャリアを積んでいく事を応援します。また、次世代の大学を担う仲間として、専門分野を超えたネットワークづくりを応援します。関心のあるかたは、ぜひご応募下さい。

プログラム説明会実施のご案内

川内

日時：2016 年 4 月 28 日（木）16 時～17 時半

場所：川内北キャンパス 川北合同研究棟 101 CAHE ラウンジ

青葉山（川内会場からの同時中継）

日時：2016 年 4 月 28 日（木）16 時～17 時半

場所：青葉山キャンパス 青葉記念会館 401

\*プログラムの概要説明以外に、過去の参加者による体験談などが予定されています。

## 記

### 1. プログラムの概要

本プログラム<フルコース>では、下記の活動を予定しています

1. PFFP へようこそ「オリエンテーション」2016年7月16日（土）
  - 自己紹介，プログラムの説明，大学教員の仕事と専門性（講義），比較の目を育てる（ワークショップ），事務手続きなどからなるオリエンテーションに参加します。
2. 基礎知識を得る「授業デザインとシラバス作成」2016年8月25日（木）
  - 基礎知識を得る（ワークショップ）では，大学の授業における目標，活動，評価や授業設計について，シラバス作成を通して考えます。参加者は事前にシラバスを作成し，提出します。
3. 基礎知識を得る「授業づくり：準備と運営」2016年9月14日（水）
  - 授業づくりについて，認知心理学の側面から解説する講義を受講し，効果的な授業運営には何が必要かについて考えます。
4. 基礎知識を得る「本当のかしこさとは何か」2016年10月
  - 大学教育では専門知識を身につけるために，「理論的」であることが重視され，「感情」は排除されてきましたが，豊かな感情を育てることは柔軟な思考力を育てるうえで重要な課題であることが明らかになってきました。感情知性と大学教育について学びます。
5. 実践力を磨く「マイクロティーチング」2016年11月
  - 参加者は「2. 基礎知識を得る」で作成したシラバスより授業1回分を選び，90分の授業計画をたて，その内の10分程度を実際に行います（これをマイクロティーチングといいます）。他の参加者からコメントをもとに，自分の授業計画をふり返ります。
6. 基礎知識を得る「コーチング技能を活用した院生指導」2016年12月9日（金）
  - コーチングとは，深い理解とスキルを身につける認知的徒弟制度において，教師がモデリングに続き，課題を実行している学生にヒントや挑戦を与えたり，動機づけ，励まし，対話を行う活動です。学生の意欲を高める研究指導に不可欠なスキルを学びます。
7. 先達から学ぶ「授業を見る聞く学ぶ：授業参観」2016年7月～2017年1月
  - 教育経験の豊富な教員の授業を参観し，自分の教育活動を考えるヒントを得ます。授業終了後の検討会では，授業内の教育活動や授業前の準備などについて授業実践者より学びます。
8. 実践力を磨く「模擬授業」2017年2月
  - 参加者は90分の授業計画をたて，そのうちの20分程度を実際に行います。他の参加者や先達教員からのコメントをもとに，自分の授業を振り返ります。

## 9. 先達から学ぶ「先達コンサルテーション」 2017年3月上旬

- ・ プログラムへの参加を通して生まれた疑問や、自らの課題について、先達教員との個人面談を実施します。また、グループディスカッションを通して、参加者全員と共有したいトピックなどについて議論する時間ももちます。

## 10. 自己省察力を養う

- ・ プログラムを通して大学教員という仕事や大学教育に関する考え方がどのように変化・発展していったのかをリフレクティブ・ジャーナルに記録し、自分なりの教育観を構築します。また、プログラムの最後には、課題論文の執筆とプレゼンテーションを行います。

## 11. 【オプション①】国内他大学訪問調査 2016年10月（2泊3日）

- ・ 国内の他大学の授業参観、教員とのディスカッションを通して、大学が置かれている状況、課題、多様性について学びます。参加者は希望調査のうえ選抜により決定します。

## 12. 【オプション②】海外他大学訪問調査 2017年2月（1週間）

- ・ アメリカのカリフォルニア大学バークレー校を訪問し、授業参観、フィールドワーク（研究者訪問）、大学学部生・院生とのディスカッションを通して、日本の大学の現状への理解をさらに深めるための比較の目を養います。参加者は希望調査のうえ選抜により決定します。

### 【成果報告】

指定するテーマで4,000字程度のレポートを作成、提出して下さい。また、成果報告会での成果発表を行います。

### 【修了証】

すべての活動に参加し、すべての課題を提出したプログラム参加者には「東北大学 大学教員準備プログラム修了証」を発行します。

### 【使用言語】

日本語を使用します。オプション②の海外他大学訪問調査は通訳なしで実施します。そのため、日本語だけではなく、英語によるコミュニケーション能力が求められます。

### 【経費】

東北大学川内キャンパス内で実施するセミナーに参加するための交通費は本人負担となります。また、オプション①②に参加する場合、旅費、宿泊費・日当は主催者側で負担します。海外旅行保険、ビザ申請費およびビザ申請にかかる面接等の費用については本人負担となります。

## 2. 応募者資格

大学教員志望の大学院博士課程後期の学生，日本学術振興会特別研究員，専門研究員など。所属大学は問わない。東北大学川内北キャンパスで実施されるセミナーやワークショップに不都合なく参加できる者。また，高等教育機関（大学，短大，高専）の非常勤教員やティーチングアシスタントなどの教育経験を有する者が望ましい。なお，国籍は問わない。

## 3. 募集人数

10名程度

## 4. 応募期間

2016年5月9日（月）～5月27日（金）

## 5. 応募要領

指定した書式（(1)履歴書 (2)業績 (3)課題論文（下記のテーマ） (4)指導教員の推薦書，下記 URL からダウンロード）に必要事項を記入し，厳封で提出してください。推薦書は開封した場合は無効とします。

### <課題論文テーマ>

“学生にとって，大学でのよい学習経験とはどのようなものだと考えますか。また，そういった学習経験を実現するために，大学や大学教員は何をするべきだと考えますか。2,000字程度で述べてください。”

## 6. 審査について

書類審査および面接により，参加者を決定します（2016年6月中旬）。面接は6月7日（火）～9日（木）を予定しています。

## 7. その他

プログラム参加終了後も OB/OG として，積極的に広報や運営などにご協力いただける方を募集します。

## 8. 提出先・連絡先

〒980-8576 仙台市青葉区川内 41

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター 宛

（川内北キャンパス 川北合同研究棟 201）

TEL: 022-795-4471 FAX: 022-795-4749

Email: [tu-pffp@ihe.tohoku.ac.jp](mailto:tu-pffp@ihe.tohoku.ac.jp)

URL: <http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/>